

## 第4回公園連絡協議会（準備活動）開催結果について

1. 日時 2022年10月5日（水）19：00～21：00
2. 場所 浦添市役所9階 講堂
3. 参加者等 18名

ファシリテータ：株式会社新産業文化創出研究所 廣常 啓一  
浦添市、UR都市機構 沖縄まちづくり支援事務所

10月5日に第4回公園利活用連絡会を開催し、経塚近隣の市民や事業者ほか、経塚公園の公園利活用に関心のある方々が18名参加した。提案者は3名。11月に開催予定のパークフェスタ（公園指定管理者及びあずまや会共催）における協力者の募集、経塚公園近隣の地域防災検討の提案、また、市民とともに作成した「経塚公園まちづくり計画」の実践と効果検証を行うための実証実験イベントの提案があった。ファシリテータからは、大きなイベントとともに、近隣の方々が気楽かつ主体的に公園が使えるようなイベントなども開催されるとよいのではないかと提案された。



### 1. 経塚公園の整備・利活用について

浦添市美らまち推進課 親里 直幸氏

◇経塚公園まちづくり計画（R3.7策定）のゾーニングについて

・経塚公園の方向性：

「地域の健康づくり及び市民の健康増進の機能を備えたまちづくりに資する公園」

- ・黄色：整備、供用開始済み
- ・オレンジ：P-PFI事業者による整備を予定
- ・青色：イベント利用（想定）
- ・緑色：自然林、散策路等
- ・灰色：駐車場、遊具広場



### ◇公園利活用連絡会について

- ・経塚公園では、公園まちづくりとして公民連携部会、市民協働部会として活動を進めてきた。令和3年より市民協働部会は公園利活用連絡会へと形を変え、公園を利活用したい方々がどなたでも参加可能な意見交換の場となった。
- ・公園利活用連絡会の活動の中には、今まで行ってきた市民農園の活動や、あずまや会などが含まれる。新たな団体なども増やしながら、経塚公園を盛り上げていきたいと考えている。
- ・公園利活用連絡会は、公園を使いたい方が自由に活動提案を行い、仲間の募集や活動の連携、地域の皆さんとの共創を推進する場である。地域の課題や悩みごとなども発表し、公園を活用した解決の活動アイデアや協力者を募ることもできる。
- ・活動したい個人や団体、事業者など、基本的にどなたでも参加可能である。
- ・(連絡会を円滑に進めるためのルール説明)
- ・公園利活用においては、各種申請、対応は主催者が行う。

### 2. 経塚公園利活用連絡会について

株式会社新産業文化創出研究所 所長 廣常 啓一

- ・浦添市では、経塚公園まちづくりとして、地域の市民や事業者、公園利活用に関心のある方々、指定管理者、これから決定する P-PFI 事業者など、様々な方々が仲間づくり（ネットワークづくり）をしながら動けるように進めてきている。
- ・全国的に、行政だけで公園の整備をしていくことが財政的に難しくなっている。そこで民間事業者の力を借りて公園整備をしやすくするような法の改正（民間企業の営業行為などを許可しながらその収益を公園整備に充てることをルール化する等）があった。
- ・公園へのクレームで禁止看板などができたりするが、一つには仲間意識が希薄なことが原因している。そこで、公園の協議会を作ってローカルなルールを作ったり、公園連絡会では仲間づくりをしていければというのが、現在進めている公園利活用連絡会の方向性である。
- ・新たな住民も増えてくるため、新たなコミュニティの場も必要がある。公園でのイベントで仲間を募集したりすることによって、コミュニティ醸成にもつながる。
- ・P-PFI 事業者との連携で、事業者によって地域の方々の活動がうまくサポートされたり、お互いに WINWIN の関係性を作っていくこともできるのではないかと考えている。

- ・ 試行的（トライアル的に）にやってみたいことなども、公園利活用連絡会を活用して意見交換をしていていただきたい。



### 3. 発表

#### ① 「地域と作るパークフェスタ」

- ・ 指定管理者（うらそえ公園管理共同企業体）に所属している。平成 31 年より立ち上がった市民協働部会の当初から参加している。
- ・ 今までに、琉大との連携や経塚公園利活用の有志とイベントなども行ってきた。
- ・ 公園利活用連絡会が開始され立ち上がったあずまや会では、今年 3 月に持ち寄りイベントを計画していたが、天候不良により延期となったため、その企画とあわせて、11 月にパークフェスタを開催したいと考えている。
- ・ このイベントを通して、公園が気軽に遊べる空間となるように、皆さんと考えていきたい。



## ②「地域の防災訓練」

- ・安波茶で自治会長をしていたころ、浦添で最初に自主防衛組織を立ち上げた。経塚公園周辺でも自治会中心に自主防衛組織が立ち上がればよいと考えている。地域には JICA や若竹福祉会、ありあけの里などもあり、完全に避難するにはどうすべきかを考える必要がある。
- ・湧き水会は、経塚自治会センターの2階にあり、さっとん及び社会福祉協議会と一緒に作った組織である。
- ・経塚公園を使って、避難訓練ができないかと考えている。この辺りは、津波などはないが、建物崩壊、火災などが起こりうる。
- ・人間は生き残る3原則（水、保温、精神力）を知っていれば生き残ることができる。



## ③「経塚公園まちづくり計画の実践と効果検証」

- ・経塚公園まちづくり計画の実践と効果検証のために、今年度造成エリアでの社会実験イベントを浦添市と調整している。
- ・令和4年度内には P-PFI 公募対象エリアの造成工事が完了し、将来の公園イメージがある程度見えてくる。3月には P-PFI 事業者も選定される。
- ・社会実験イベント実施の目的
  - ① 「経塚公園まちづくり計画」の可能な範囲での実施
  - ② 「プレイスメイキング」の要素を取り入れ、利用者に心地よい空間を提供
  - ③ 利用者ニーズ、使われ方、施設配置・景観等の把握・検証
  - ④ 今後の公園整備PRと期待感の醸成
- ・南池袋公園は整備後、多様な人々に使われる空間となったが、UR 内でそうなった理由について分析をした。公園は、従来はまずハードを作ってから利用することを考えるが、プレイスメイキングの考え方では、人の活動などから発想し、(公共)空間を作り、結果として人々の暮らしを豊かにするという順番となる。その中でも特に重要なのは、「場」の要素を組み合わせること。「座り場」や「陰り場」、「話し場／離し場」などが重なることによって、よりよい空間になると考える。
- ・市民協働部会、公民連携部会での意見を踏まえ、ゾーニングや経塚公園の方向性を検討し、「経塚公園まちづくり計画」を作成した。経塚公園の方向性は、「地域の健康づくりや市民の健康増進に

資する『ヘルシーパーク』とした。公園利活用の方法についても様々なアイデアが出され、まちづくり計画にも記載されているが、その中で今の段階でも、社会実験イベントで実現できるのではないかと考えた部分を赤枠で囲った。できる範囲で取り組めればよいかと思う。



#### 4. 公園利活用のアイデア 廣常啓一（新産業文化創出研究所）

- ・公園活用には大きなイベントなど、高いハードルがあるように思われがちだが、気軽に企画したり参加することも知っていただきたい。例えば線香花火を持ち寄り、楽しむような企画等でもよいと思っている。
- ・ピクニックのテーブルを用意して食事をするだけで、いつもとは違った楽しい企画となる。（ex. ロングテーブル）
- ・線香花火やテーブルでの食事などの企画は、全国的に様々な魅力的な催しとして開催されている。定期的にこのような企画ができれば、常に賑わいのある公園となる。